

目 次

はじめに	1
序章 那須塩原市下水道のあゆみ	2
第1章 下水道中期ビジョンの位置付け	1- 1
第2章 下水道の現状と課題	2- 1
1. 施設整備における現状と課題	2- 4
2. 施設機能維持における現状と課題	2-10
3. 下水道財政における現状と課題	2-14
4. 市民ニーズをふまえた下水道事業の方向性	2-20
第3章 基本理念及び基本方針	3- 1
1. 基本理念	3- 2
2. 基本方針	3- 3
3. 那須塩原市公共下水道の将来計画	3- 8
第4章 目標設定と今後の施策	4- 1
1. 生活環境の改善と利便性の向上のために	4- 4
2. 環境保全機能の向上のために	4- 6
3. 安全・安心なまちづくりのために	4-10
4. 健全な下水道事業経営のために	4-14
第5章 下水道財政の見通しと下水道事業経営のあり方	5- 1
1. 下水道財政の見通し	5- 3
2. 下水道事業経営のあり方	5-12
第6章 下水道中期ビジョンの実現に向けて	6- 1
1. アクションプログラム（平成23～27年度）	6- 4
2. 中期計画（平成28～32年度）	6- 9
3. P D C Aサイクルによる下水道中期ビジョンの実行方針	6-12
【参考】用語解説・策定経過	参考- 1

はじめに

本市は、平成 17 年 1 月 1 日に当時の黒磯市、西那須野町、塩原町が合併し、現在までに 6 年が経過しました。

この間、平成 19 年 3 月には本市の将来像「人と自然がふれあうやすらぎのまち那須塩原」と定めた「総合計画」が策定されました。さらに、平成 21 年 3 月には「都市計画マスタープラン」が策定され、「集約型都市構造」への転換が進められています。

また、現在策定中の「土地利用調整計画」(案)では、本市における将来像の実現に向けて、土地利用誘導の基本的な方向性が示されています。

下水道においては、合併前の平成 16 年 3 月に「栃木県生活排水処理構想」が策定され、県全域について地域の特性に応じた適切な手法により整備が進められてきました。

その結果、本市の下水道処理人口普及率は平成 15 年度末から約 5%上昇して平成 21 年度末で 51.0%となり、人口の集中している市街地の整備は概ね完了しました。現在は、市街地周辺の比較的人口密度の低い地域の整備となっていることから、管渠の面整備を行ってもなかなか処理人口普及率が上がらない状況です。

さらに、下水道は快適な市民生活と地域環境の保全のため不可欠な都市施設ですが、多額の事業費を必要とすることから、経営の安定化が今まで以上に大きな課題となっています。

こうした状況を踏まえ、平成 21 年 5 月に市長から下水道審議会に『今後の下水道事業のあり方について』を諮問し、審議会では下水道事業に期待される事業の効率と効果を満たすことが出来るよう同年 5 月より 2 カ年に渡り審議を進めました。

その結果を踏まえ、下水道事業の現状から今後取り組むべき課題を明確にし、本市下水道が目指す将来像とその実現に向け、今後 10 年間の整備目標や具体施策を示した『那須塩原市下水道中期ビジョン』を策定しました。

この下水道中期ビジョンをもとに、まちづくりと連携し、本市の将来像の実現に向け下水道事業を推進していきます。

序章 那須塩原市下水道のあゆみ

(1) 公共下水道の概要

那須塩原市の汚水処理整備計画では、下水の処理を「公共下水道」、「農業集落排水」、「浄化槽」整備地区に分けて処理することとしています。このうち、公共下水道は黒磯公共下水道、塩原公共下水道、北那須流域公共下水道の3処理区に分けて整備しています。



那須塩原市の公共下水道概要

(2) 公共下水道の沿革

昭和 37 年に黒磯都市下水路整備が始まり、昭和 49 年からは公共下水道事業認可を取得し、公共下水道整備を進めてきました。昭和 55 年に黒磯処理区、昭和 61 年に塩原処理区と西那須野処理区で供用開始し、以後、整備を拡大し、各地区で供用開始をしています。

平成 17 年に那須塩原市が誕生し、下水道への多様なニーズや安定経営を目指し、「下水道中期ビジョン」の検討に取り組んできました。

那須塩原市の公共下水道事業経緯の概要

年月日	事業
昭和37年	黒磯市都市下水路整備始まる
昭和49年 2月22日	黒磯市下水道事業認可 黒磯地区単独公共下水道事業建設始まる
昭和52年 1月5日	塩原町公共下水道事業認可 塩原温泉街の単独公共下水道事業建設始まる
昭和55年 4月17日	黒磯処理区供用開始
昭和56年 7月14日	北那須流域関連西那須野公共下水道事業認可 西那須野地区の下水道事業建設始まる
昭和61年 3月31日	塩原処理区供用開始
	西那須野処理区供用開始
平成 2年 6月30日	北那須流域関連東那須野処理区供用開始
平成 6年 8月31日	板室特定環境保全公共下水道事業供用開始
平成 9年 3月31日	高林特定環境保全公共下水道事業供用開始
平成11年 3月31日	北那須流域関連塩原公共下水道事業供用開始
平成12年10月28日	黒磯市水処理センター20周年記念感謝祭
平成12年 3月31日	北那須流域関連西那須野特定環境保全公共下水道事業供用開始
平成17年 1月 1日	那須塩原市誕生 「黒磯水処理センター」、「塩原水処理センター」に名称変更
平成21年から 平成22年	快適な市民生活、地域環境保全などの多様なニーズへの対応や限られた財源での安定経営などの課題に対応するため 「下水道中期ビジョン」の策定検討を進める

(3) 公共下水道の普及状況

昭和 55 年の黒磯処理区供用開始から約 30 年経過した平成 22 年 3 月現在の公共下水道の整備と普及の状況は下表のとおりで、事業認可面積に対する整備率は汚水 77.0%、雨水 30.1%、普及率（汚水）は 51.0%となっています。

公共下水道の整備と普及の状況

平成 22 年 3 月 31 日現在

		公共下水道		備考
		汚水	雨水	
供用開始 区域内	人口	59,491 人		
	世帯数	23,812 戸		
水洗化	人口	51,509 人		
	世帯数	20,527 戸		
普及率		51.0%		供用開始区域内人口 ÷ 住民基本台帳人口
水洗化率	人口	86.6%		水洗化人口 ÷ 供用開始区域内人口
	世帯数	86.2%		
供用開始	黒磯処理区 塩原処理区 北那須流域関連	昭和 55 年 4 月 昭和 61 年 3 月 昭和 61 年 3 月		
事業認可面積		2,606.50ha	1,291.00ha	平成 22 年度現在の事業計画値
整備面積		2,007.46ha	388.70ha	
整備率		77.0%	30.1%	整備面積 ÷ 事業認可面積
整備延長		430,226.0m	27,670.5m	

※住民基本台帳人口：116,739 人

(4) 農業集落排水事業の概要

本市の農業集落排水事業は、農業振興地域内の生活排水改善と農業用水の水質保全をするために、南赤田地区と東部地区の2地区で整備を行いました。

南赤田地区は平成5年から整備を開始し、平成9年に供用開始しました。また東部地区は平成10年から整備を開始し、平成16年に供用開始しました。

農業集落排水の整備と普及の状況

平成22年3月31日現在

		農業集落排水		備考
		南赤田地区	東部地区	
供用開始 区域内	人口	1,581人	1,658人	
	世帯数	390戸	409戸	
水洗化	人口	1,322人	1,160人	
	世帯数	326戸	286戸	
普及率		2.8%		供用開始区域内人口 ÷住民基本台帳人口
水洗化率	人口	83.6%	69.9%	水洗化人口 ÷供用開始区域内人口
	世帯数	83.6%	69.9%	
供用開始		平成9年4月	平成16年4月	
事業計画面積		85ha	70ha	平成22年度現在の事業計画値
整備面積		85ha	70ha	
整備率		100%	100%	整備面積÷事業認可面積
整備延長		10,126m	17,703.23m	

※住民基本台帳人口：116,739人

(5) 浄化槽の概要

生活雑排水の未処理放流による公共用水域の水質汚濁防止のため、公共下水道認可区域及び農業集落排水事業区域を除く地区では、浄化槽の設置を促進しています。

平成21年度末現在、浄化槽による処理人口は14,688人となっています。